

県南思考 Vol.24

特集：道路整備計画、加速する

市民生活のインフラを考えたとき、道路は、最も重要な要素のひとつ。JR、私鉄、地下鉄と縦横に交通ネットワークが張りめぐらされた都心とことなり、日常の移動をクルマに頼らざるをえない南房総では、その重要度はおのずと高まります。三方を海にかこまれ、内陸には山地がつらなる南房総。他府県のように隣接地へ迂回路を作ることもままならず、道路建設には、いくつもの高いハードルをクリアしなければなりません。そのハードルを乗りこえ、道路状況を少しでも改善していくと、いま南房総各地で、さまざまなプロジェクトが進行しています。



特集：道路整備計画、加速する

道路の整備、それは暮らしを整備すること。 物流、観光、防災、地域活性。 一本の道路がもたらす複合的なメリット。

鴨川市天津から養老渓谷方面へ向かう
県道 81 号線(市原天津小湊線)。

日蓮宗の大本山として知られる名刹、清澄寺にほど近い山中に、いまループ橋が建設されています。正式名称は「清澄山道ループ橋」。

ループ橋とは、高低差の大きい場所に道路を建設する際、円を描くようにつくり、スムーズな通行を実現させるもの。伊豆の河津七滝ループ橋が有名ですが、房総半島では初めてとなる建設が進んでいます。

工事の背景には、ドライバーを悩ませてきた道路状況があります。

落石、土砂くずれが頻繁におこり、道幅がせまいうえに、急カーブが多く、土地の人でも神経を使う交通の難所。ましてや、観光で訪れた慣れない首都圏のドライバーは、すれ違いも思うようにならず、事故も少なくありませんでした。

幅を広げ、ゆるやかな坂道で道路をつくることができれば問題ありませんが、地形的に余裕がなくきわめて困難。そこで、ループ橋が採用されました。



▲盛大な生誕 800 年のイベントが予定されている日蓮宗の大本山・誕生寺、清澄寺

すでに橋本体は完成し、2020 年春の開通をめざし、接続道路などを工事中です。

2021 年には日蓮聖人の生誕 800 年を迎える、誕生寺、清澄寺で多彩な行事が予定されています。

訪れる多くの参詣客にとってスムーズな走行が実現するだけでなく、めずらしいループ橋は、新たな観光スポットとしても注目されるはずです。

着工した船形バイパス

館山市では 2018 年 11 月、船形バイパスの工事が始まりました。

館山道・富浦 IC 付近の国道 127 号から、船形小学校のわきを抜け、船形漁港を経由して「海岸通り」へ入る約 1.6 キロの新ルート。

JR 内房線にかかる仲尾川橋付近の現場で約 70 メートルほど盛り土工事が行われていて、今年度は引き続き側溝工事などの整備が進められる予定になっています。

当初、県道犬掛館山線を拡幅して対応することも検討されましたが、住宅密集地だったこともあり計画が難航。

しかしながら、館山道を使って訪れる観光客をスムーズに海岸線へ誘導するため、また、地域活性化のために「ぜひとも必要」という市民の願いがあり、18,000 を超える熱心な署名活動にも背中を押されて事業に着手しました。

予定されているルートの周辺道路は道幅もせまく、一部で小学校児童の通学路になっている箇所もあり、歩道もない 1 車線道路に、国道の渋滞



①②深い緑と外房の海。円を描きながらなめらかに変化する車窓の風景がドライバーの目を楽しませるはずである ③せまい上に見通しが悪い現場近くの道路。大型車とすれば違うたびに神経をすり減らしドライブを楽しむどころではなかった

時には抜け道として多くの車両が進入するため、子どもたちは常に危険にさらされてきました。

道路が完成すれば広い歩道のついた、片側一車線の対面通行が実現。児童たちも安心して通学できるようになります。

また、船形漁港や海岸通りに展開する観光施設に直結し、大雨の時に水があふれていた排水問題もクリア。さらに国道 127 号の渋滞解消も期待されるなど、一本のバイパスによって、複合的な整備効果がもたら



▲仲尾川橋近くの船形バイパス着工現場で館山市の担当者に計画の概要を聞く。(左から)木下県議、都市計画課の山川博史副課長、粕谷政雄課長、三沢県議



▲約 70 センチほど土が盛られ道路の基盤ができる



▲バイパスは船形漁港近くで海岸通りに接続する
されようとしています。

道路ネットワークの整備

千葉県の道路は、大動脈である東京湾アクアラインと、それに直結する館山道が今年3月に富津中央ICまでの4車線化が完成。さらに、木更津からは圏央道が伸びるなど順調に整備されつつあります。

その一方で、南房総地域にスポットを当ててみると、大規模な道路開発からは取り残された状況にあります。

公共交通の手段が少ない南房総では、市民の足はクルマに頼らざるをえず、毎日の通勤、買い物はもちろん、どこへ出かけるにもクルマは不可欠で、必然的に一定の時間にクルマが生活道路に集中するため渋滞が発生。

また、夏期や年末年始など、トップシーズンには、多くの観光客が南房総を訪れるため、主要道路がクルマであふれ市民生活に不便が生じるだけでなく、物流が停滞するなど、地域の経済にも大きな影響が出ています。

こうした南房総地域の道路状況を大きく改善するものとして期待が集まっている計画に「地域高規格道路」があります。

高規格道路とは、基本的に自動車専用、もしくはこれに準ずる形で作られるもので、時速60キロ以上での高速走行を前提に建設される道路です。

現在、南房総地域では、「茂原・一宮・大原道路」「鴨川・大原道路」「館山・鴨川道路」の3路線が計画されています。

なかでも館山市と南房総市、鴨川市を結ぶ「館山・鴨川道路」計画は県南地域に密接な関係があり、一日も早い実現をめざし館山市、南房総市、鴨川市、鋸南町の3市1町に千葉県も加わった「館山・鴨川間道路交通対策検討会」も設立されました。

早期実現には市民の声によるバッカアップが不可欠と、50万人を目標とした署名活動も開始され、鴨川市役所など市内6か所に署名窓口が設置されるなど、地域が一体となった運動も始まっています。

もしもこの道路が実現すれば、市民の日常生活が飛躍的に改善されるだけでなく、観光客にとっても渋滞が緩和され、リピーター客も増加していくに違ひありません。

このところ、地震、津波などの大規模災害や、「数十年にいちど」と表現される集中豪雨が各地で多発。緊急車両の出動や、クルマによる避難などを考えたとき、防災の見地からも、道路整備は急を要しています。

道路は生活の要です。

アクアライン、館山道、圏央道などの大動脈と一体となった県南の道路ネットワーク整備。

それは、単に人の移動や物流の改善だけでなく、観光、防災など、地域の活性に直結する、重要な使命を帯びているのです。



▲鴨川駅前、イオン鴨川店4階にある市民サービスセンター内に設置された高規格道路の署名コーナー



(左から)木下県議、三沢県議、千葉県安房郡土木事務所/高山治所長、上村友和主査。地図を前に県南の道路状況について説明を受ける

見をうかがいながら、課題の整理を進めているところです。道路の改善という意味では、橋やトンネルの保全も重要です。南房総市、鴨川市とともに、地域のトンネルは建設後50年を経たものが多く、老朽化が目立ちます。事故が起きる前の点検、補修を強化して、市民の日常生活に支障がないよう整備していくのも重要な仕事と考えています。市民の皆さんからすれば、道路改善など少しも進んでいないなと思われるかもしれません、少しずつ着実に取りくんておりますので、どうかご理解いただきたいと思います。

高齢化が進む鴨川市のトンネル

鴨川市には建設後50年以上経過しているトンネルが多く今後急速に高齢化していきます

~1945年 2本

~1955年 8本

~1965年 2本

~1975年 2本

(鴨川市トンネル長寿命化修繕計画 2019年2月)

Pin Point インタビュー

市の担当におたずねします

県南各地で進められている道路整備計画。その現状と今後の予定について、地域の道路事業にたずさわる千葉県安房土木事務所のご担当にうかがいました。

圏央道など道路整備が進む県北に対し遅れているように見える県南ですが

最大の理由は房総半島の南端に位置するという地形にあります。三方を海に囲まれ、隣接する土地への迂回ルートなど、自由に道路を延長させていくことができません。また、それほど海拔が高くはないのですが、海岸線を離れると山地、丘陵が連なっていて幅の広い道路を作ることがむずかしい。つまり、平地に恵まれないため、道路建設に困難がともないます。しかも、鴨川市、南房総市、鋸南町の多くは地滑り防止区域に指定されていて、ここでも道路建設の際に慎重な対策を講じなければならず、またメンテナンスにも労力をさかれるといった現実があります。

道路改善のために取り組んでいる その基本姿勢をきかせてください

県南地区は電車、バスなどの交通ネットワークが整備されているわけではなく、ほとんどの方の日常生活をクルマが支えていて、道路の重要度は非常に高いと認識しています。こうした生活道路の利便性向上をはかることはもちろんです

が、災害時の救命、救護を考える防災上の点からも道路の重要度が増しているため、地域幹線道路の確保は最重点項目となっています。また、観光という点から見ても、館山、南房総、鴨川を結ぶ道路網の確保が必要で、館山道などの高速道路ネットワークに接続して、地域を横断、あるいは縦断する道路の整備。道がせまくて走りづらい場所の拡幅整備、耐震性の強化、歩行者の安全確保のための歩道整備などを重点項目に取り入れています。

現在進行中あるいは計画中の 具体的な改善計画を教えてください

着工から18年、総工費約50億円をかけたループ橋がようやく最終段階に入りました。また船形バイパスについても一部で工事が始まりました。さらに、平成15、16年に通行止となり市民生活が大きな影響を受けた実入トンネルについては、並行する形でバイパスを建設中で、すでに683メートルのトンネル部分の掘削は完了し、周辺道路の整備を行っています。市街地に集中する渋滞解消のため、館山と鴨川間、約30キロをダイレクトに結ぶ「館山・鴨川道路」も地元の意

特集：道路整備計画、加速する

結びの対論

三沢県議×木下県議

道路は最も大切なインフラのひとつ。
県南における、その重要度が理解され、
県の予算も増額傾向にあります。

木下 それにしても緑の中に出現する巨大なループ橋、インパクトがありました。

三沢 山側から降りてくると一段と効果的に、キラッと光る海をバックに一気に視界に飛びこんでくる。観光客なら誰でも胸をおどらせるのではないかでしょうか。

木下 あのあたりは、もともと道幅がせまくカーブも急でしたからね。日蓮生誕800年祭という大きなイベントを控えた地域にとっても、このタイミングで完成が見えてきたことは意義深いはずです。

三沢 大きく円を描くシルエットが絵になるし、インスタ映えというんですか、どこかクルマを停めて写真でも撮れるように工夫すると、新たな観光スポットとして人気を集めてしまう。

木下 ただ、同時に課題もあって、あそこだけ改善されても意味がない。養老渓谷の方へ登っていくと、地元の人でも難儀するほどせまくて見通しの悪い道がまだ続いている。

三沢 市原側と鴨川側と少しずつ改良工事も進んでいるようですが、1日も早い全線の整備が望れますね。

木下 館山、南房総、鴨川の各市を見てみると、公共の交通機関がほとんどないと言ってもいい状態で、どうしても市民生活はクルマに依存せざるを得ない。

三沢 通勤、通学。買い物に行くにも、病院へ通うにも、何をするにもクルマ、クルマ。ですから年末年始やお盆の時期に、主要道路が観光客のクルマで埋まってしまうと、我々市民は日常の移動に本当に苦労する。

木下 結果的に、市街地のせまい道にクルマが入っていかざるを得なくなつて、ドライバーが神経を使う。同時に、歩道もないで歩行者も危険にさらされるわけですね。

三沢 船形バイパスが計画されたのも、そんな事情が背景にあるからなんです。館山道から市内に入る国道127号線など、年末年始、花火のシーズン、お盆の時期になると、動かなくなってしまう。

木下 国道から館山道に入って、アクアラインにまでつながったなどということも過去にありましたからね。

三沢 富浦出口に近いトンネルのところで1車線になるので、あれがまた渋滞の原因になる。観光客というのは、一度ひどい渋滞にあうと、それによりて、また訪れようとは思わなくなるでしょう。経済的な面からも大きなマイナスですよ。

木下 道路というのは当然のことながら選択肢が多いほど望ましいわけで、短い時間で移動できるようになれば、市民の利便性も向上します。

三沢 バイパスが完成すれば、館山道を降りたドライバーをスムーズに海岸線に誘導させることができます。館山は第一次産



業と並んで観光が地域の経済を支えています。海は大切な観光資源。今後、漁師が減って漁港が縮小していく可能性もありますが、その場合はヨットハーバーにして、ガラリとイメージを変え、レストランやショップを整え、観光案内所を設けて観光客を迎えるなどアイデアはいくらでもあります。

木下 道路に対しては、2011年の東日本大震災以降、行政も、市民の側も認識がガラッと変わりました。防災という要素が重要視されるようになったんですね。

三沢 道路が寸断されて被害が拡大した、逆に一本の道路が多くの命を救った事例が数多く報告されましたからね。

木下 船形バイパスの場合も、津波がきた時に、地域住民の方が一直線に高台へ避難する道として確保されるようになるわけで、その意味でも早期実現が望ましい。実は、千葉県にある54の市町村に対し自民党千葉県連の政調会でアンケートを取ったところ、約6割が道路関係の改善を希望されていることがわかりました。

三沢 どこの自治体も、インフラ整備を最優先課題にかけているんですね。それだけ、住民の方は道路に日常的に不便を感じているわけでしょう。館山と鴨川をダイレクトに結ぶ「高規格道路」も、完成すれば便利とわかっていても、なかなか遅々として進まない。

木下 やはり、あの規模の道路となると、それこそ何十年という単位で考えざるをえません。ただ、県の道路予算を見てみると、平成22年から29年までは、毎年コンスタントに600から700億円で推移してきたのが今年860億円近くになり、来年度はさらに上乗せされている。道路についての要望を議会を通じて繰り返し訴えた結果、森田知事になって耳を傾けてくれるようになり、南房総の道路の重要度を理解して予算も増額されてきました。

三沢 安房地区だけでも今年度は49億、繰越金を入れると67億円にのぼっています。

木下 今年度は、そのかなりの部分がループ橋と、新実入トンネルに使われたわけですが、その工事が完了すれば、今度は館山や南房総を対象に道路予算が使われていくはずです。

三沢 道路の補修、拡幅や渋滞する箇所を改善するなど、細かくあげていけばいくつもポイントがある。一気に進めれば話は早いんでしょうねが限られた予算のなかで、そもそもいかない。

木下 市町村でやれることには、おのずと限界があります。だったらそれを県に訴えて、足らない部分は国に訴えていく。それが我々県会議員の仕事ではないでしょうか。

木下 敬二（きしたけいじ）

南房総市・安房郡選出
昭和23年5月17日生まれ
事務所/〒295-0005
南房総市千倉町牧田164-1
TEL: 0470-44-4111
FAX: 0470-44-4112
<http://kishitakeiiji.com/>
e-mail: info@kishitakeiiji.com

主な議員履歴
●自由民主党千葉県支部連合会関係
総合企画水道部会 / 部会長
商工労働企業部 / 部会長
筆頭副幹事長
政務調査会長

●千葉県議会関係
総務常任委員会 / 委員長
農林水産常任委員会 / 委員長
予算委員会 / 副委員長
議会運営委員会 / 委員
千葉県環境審議会 / 委員

県南思考 Vol.24

発行: 2019年9月1日
制作: 「県南思考」制作委員会
編集: 式守編集工房
デザイン: TMS
南の風を県政に。南房総選出の県議による「県南思考」は市民の皆さんとともに、県南のあるべき姿を追い求めていきます。本紙をお読みになった感想、ご要望、その他ご意見は各県議の事務所までお気軽に寄せください。

三沢 智（みさわさとし）



館山市選出
昭和29年11月14日生まれ
事務所/〒294-0037
館山市長須賀470-1
TEL: 0470-22-3051
FAX: 0470-22-3052
<http://misawasatoshi.com/>
e-mail: office@misawasatoshi.com